

## アクション・リサーチのまとめ

学校名 吉城高等学校

研究年度 20 年度 研究対象 (学年クラス等) 2 年 生徒数 155 名

科目名 英語 II、Writing 単位数 7 : 普通科文系、5 : 普通科理系・理数科

使用教科書名 UNICORN II, Daily Writing

### クラスの様子・特徴

普通科 3(文系 2 / 理系 1)、理数科 1 クラス。理数科はほぼ全員が進学希望、普通科は就職、専門学校、大学進学希望と多様。クラスによって雰囲気は異なるが、おおむね、授業には落ち着いた態度で臨める。

### 問題の特定

文の組み立て方を理解していない生徒が多い。語彙不足である。物語全体を把握する力が欠けている。英語に対する苦手意識が強い。効果的な自主学習の方法がわかっていない。

### 現状把握

#### A 授業観察

発問の答えが、単語レベル、教科書からの抜き出しである場合には答えられるが、要約など、まとまった英文を自分で作るような活動には困難を示す。自分の考えを述べる力が付いていない。

#### B GTEC

Reading 及び Listening では、昨年より解釈ができるようになってきているが、まだ、話の概要をとらえたり、背景を憶測したりするところまではできていない。Reading のスピードも付いていない。昨年と比べ、Writing が伸びていない。

#### C 質問紙調査

家庭学習時間が少ない。自主的な学習姿勢が育っていない。英語学習の目的を受験や成績と答えた生徒は少数。エッセイについては少しずつ自信が見られるようになってきた。

### リサーチ・クエスチョン

エッセイ・表現活動を継続的に位置付けることで、英語による積極的な発信力を付けることができるのではないか。

### 仮説・実践・検証

#### 仮説 1

表現活動を継続的に行うことで、Speaking/Writing において抵抗なく自分の考えや状況を説明できるようになるのではないか。

#### 実践 1

- ① 英語 II : Summary をセクションごとに位置付ける。
- ② Writing : Monthly Essay
- ③ Speaking Test 年 2 回
- ④ 自由英作文を定期考査に入れる。

#### 検証 1

- ① 読んだ内容を要約することには抵抗がなくなってきたが、自分の言葉で言い換えるところまでには至っていない。
- ② Monthly Essay を実施したクラスは、量・質ともに上達してきた。
- ③ 口頭のペア・ワークが抵抗なくできるようになってきた。
- ④ 自由英作は準備をして臨んでいるので、書く力が付いてきたかどうかは定かではない。

## 仮説 2



## 実践 2



## 検証 2

オープン・エンドな課題を課すことによって、自主的・積極的な学習姿勢が身に付くのではないか。	① 毎週復習ノートを提出させる。 ② Monthly essay など、自由度の高い課題を課す。	① 復習ノートは事務的にやっている生徒提出できない生徒が過半数である。 ② Monthly essay を楽しむ生徒が増えてきた。
---	---	--

### 研究の成果

- ① Summary: 読んだ内容を要約することには抵抗がなくなってきた。
- ② Monthly essay: ペア・ワーク、文脈の中での文法復習、自己評価、Common error exercises、peer feedback、書き直し、評価、という流れの中で、一つのエッセイを仕上げていくことにより、能動的に取り組む姿勢が見えてきた。
- ③ Speaking test: 評価に組み入れることにより、speaking の活動に積極的に取り組むようになってきた。



### 今後の課題

- ・短時間で、辞書を使わずにまとめた英文を書くことには、まだ抵抗がある。授業のウォーム・アップの活動として short writing を取り入れるような対策が必要である。
- ・Listening や速読力が十分に付いていない。語彙が不足しているのも原因の一つである。
- ・継続的な家庭学習・自主学習の習慣がまだ身に付いておらず、したがって、自分なりの学習方法を確立できている生徒が少ない。受験だけを学習目標としない統合的動機付けができるような指導工夫が必要である。